

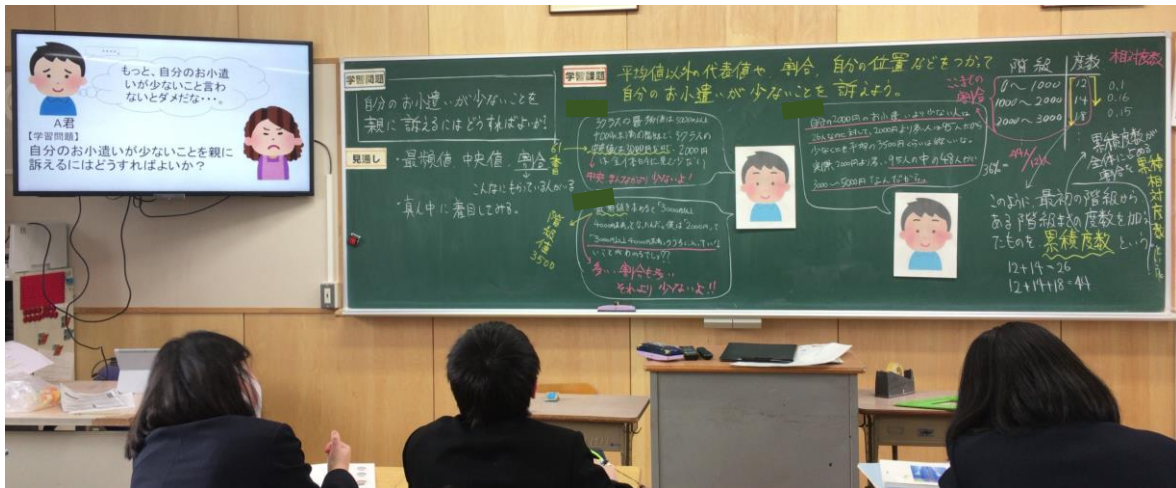
お茶の水女子大学附属学校園での実践を基にした 実践事例報告

1. 実践した学校園・授業者：信州大学教育学部附属長野中学校・市川大輔
2. 学年・教科等・単元等：中学校第1学年・数学科・「データの活用」
3. 基にした実践の学校園：お茶の水女子大学附属中学校
4. 基にした実践：「累積度数」

お茶の水女子大学附属学校園算数・数学部会編著（2018）『「データの活用」の授業～小中高の体系的指導で育てる統計的問題解決力～』, pp. 110-115.より

5. 実践「お小遣いアップ大作戦」の概要

授業は平成31年2月25日（月）に実施した。ねらいは、累積度数や累積相対度数の意味とその必要性を理解することである。基にした実践からアレンジしたことは3点ある。1点目は、問題のもとになった背景をスライドで示し、値上げを要求する子どものセリフを考える文脈を設定したこと。2点目は、提示するデータから中央値や最頻値をカットしたこと。最後は、個人で考える時間を増やし、グループ活動を取り入れなかったことである。



6. 実践してみた感想など

お小遣いの値上げという身近な題材であるため生徒の追究意欲が高かった。中央値や最頻値を根拠にした生徒が多く、自分よりも少ない人数を根拠にした生徒は少数だった。代表値をカットせずに、代表値以外の新しい方法を見つけるといふ追究の流れになるように、教師の発問や働きかけを工夫する必要があった。また、電卓を準備し、計算に手間取ることがないようにしたい。